

ガザへの思いを込め、福島から凧揚げ

寄稿 Dialogue for People 副代表/フォトジャーナリスト 安田菜津紀



大熊町の帰還困難区域から、「STOP THE GENOCIDE」「NO WAR」などのメッセージが書かれた凧が揚げられた



帰還困難区域を訪れた人を案内しながら、搜索の様子を伝える木村さん



震災直後に木村さんが作った家族の搜索用のポスター

イスラエル軍によるパレスチナ自治区・ガザ地区への軍事侵攻と凄惨な虐殺が1年以上に渡り続いている。多くの子どもを含む4万4000人が殺害されたと報じられているが、相当数の人々が瓦礫の下敷きになり、死亡の確認もされていない。

ガザ地区では毎年3月、東日本大震災の被災地の復興を願う凧揚げが続けられていた。そして2024年秋、ガザやパレスチナの人々への連帯を示そうと、北海道パレスチナ医療奉仕団を中心とする市民有志が、日本での全国一斉凧揚げアクション参加を呼びかけた。イスラエルに対しては即時停戦と占領の終結を、そして日本政府に対しても、平和的解決に尽力するよう求めるものだ。

このアクションに加わった一人が、福島県大熊町出身の、木村紀夫さんだ。2011年3月11日、津波に襲われた街で、木村さんの父、王太郎さん、妻の深雪

さん、次女の汐風さんが行方不明となった。翌12日には原発事故により、避難を余儀なくされ、搜索の道を絶たれる。その後、王太郎さんと妻の深雪さんが遺体となって発見されたが、汐風さんの行方は分からないままだった。

2016年末にようやく、泥だらけのマフラーから、汐風さんの小さな首の骨が見つかる。2022年1月には、右足の大腿骨が発見された。こうして娘が「ばらばらになって帰ってくる」のは、どれほどの痛みだろうか。

11月18日、大熊町での凧揚げには約10人が参加した。会場となった木村さんの自宅周辺はまだ帰還困難区域内だが、それでも住人たちがこれを機に「戻って」きた。

木村さんはガザの惨状を知りながら、何もできない自分にもどかしさを抱いていたという。「社会の裏で誰かを犠牲に

しない」という願いを込め、今後も凧揚げを続けていきたいという。

凧揚げは全国各地で行われ、「何かしたいけれど、何をしたらいいかわからない」という私の知人たちも次々と参加した。「置き去りにしない」ための行動は、ごく身近なところから積み重ねられるはずだ。



安田 菜津紀

認定NPO法人Dialogue for People(ダイアログフォーピープル/D4P)フォトジャーナリスト。同団体の副代表。東南アジア、中東、アフリカ、日本国内で難民や貧困、災害の取材を進める。東日本大震災以降は陸前高田市を中心に、被災地を記録し続けている。

発行元 認定NPO法人 NEXTEP

〒861-1112 熊本県合志市幾久富 1123-5 TEL:096-227-9001 FAX:096-227-9004

HP:www.nextep-k.com MAIL:home@nextep-k.com

認定NPO法人 NEXTEP

多くの出会いが自分を磨き、次の一歩のきっかけとなる

子どもたちの笑顔が未来をつくる

NEXTEP 通信

2025.1 VOL.44

NEXTEP 通信 VOL.44 2025年1月発行



ファミリーキャンプ2024

病気や障がいを抱えたこどもとその家族に「はじめての家族旅行」をお手伝いさせていただくことを理念に、今回4年ぶりにファミリーキャンプを開催することができました。

コロナ禍もありなかなか開催にたどり着けずにはいましたが、今年は県外から沖縄と栃木の2家族、熊本県内から1家族をご招待しての2泊3日の天草旅行となりました。

直前に台風が接近し、飛行機は無事に飛べるのかとヒヤヒヤする場面もありましたが、3日間とも天候に恵まれました。

1日目、県外ご家族を福岡空港でお出迎えし、手作りのウェルカム横断幕に喜んでいただきました。宿泊先のリゾザバードでは、オシャレな夕食会場で盛り上がり、ご家族の緊張もほぐれ楽しまれていた様子でした。

2日目、海中水族館シードーナツでイルカタッチング&餌やり体験、天草五橋クルージング。初めての景色や様々な魚に触れキラキラと目を輝かせる子どもたちの姿がとても印象的でした。また夕食時に参加ご家族の誕生日をサプライズでお祝いし、ケーキを頬張る姿に自然と周りも笑顔に包まれました。

3日間色々な経験や交流をしていくうちにご家族同士の仲も深まり、自然と情報を共有したり SNS を交換されていたりとファミリーキャンプを通してつながりを育むきっかけになったのではないかと感じました。

この旅行の経験が成功体験となり、今後ご家族だけでも外出できる自信につながればと考えております。

今回も様々な形で多くの人にご協力いただき、とても素敵な旅行にすることができました。スタッフ同感謝申し上げます。今後もこのファミリーキャ

ンプが続き、たくさんのつながりが広がっていければと思います。(赤瀬ノア 松村亮)



開催概要

日時：2024年11月2日～11月4日
会場：リゾザ・バード、リゾラテラス、シードーナツ、ホテル竜宮
参加者：キャンパー13名 県外家族(沖縄:3名/栃木:3名) 県内家族:4名 帯同看護師:3名



この「ファミリーキャンプ」は、日本財団・日本歯科医師会で実施されている「TOOTH FAIRY」プロジェクトの助成を受け実施しました。



開催概要

日時：2024年10月20日
会場：ママトコキッチン
参加者：70名

オータムぱちフェス初開催！！



秋晴れの空のもと、念願だったぱちフェスを開催しました。ここ数年、コロナ禍で利用者さんが集合するイベントを開催できない時期が続きました。今回久しぶりにみんなで集まって顔を合わせ、おしゃべりしたりブースを回ったりと、ご家族で楽しむ企画を開催でき、利用者さん、家族、スタッフ含めてたくさんの笑顔を見ることができました。

なかでも盛り上がったのが、ハロウィンファッションショー！！ぱっちり準備をしてきてくれた方、飛び入りで参加してくれた方、予想以上のたくさんの参加で、ギャラリーも多く、とてもにぎやかな時間になりました。アロママッサージなど、他のブースも大盛況でした。ぜひまた来年も、という声を方々からいただいています。乞う、ご期待！（田北洋子）

クリスマスマーケット熊本2024が開催されました



2024年のクリスマスマーケットも、おかげさまで無事終了しました。前回に引き続き3会場での開催となり、NEXTEPでは各会場でもホットチョコレートを、花畑広場では「焼き菓子屋クイソソ」として、メゾン・ド・キタガワ（熊本市南区）北川シェフ監修のクレープ店を出店しました。

加えて、今回クリスマスマーケットにあわせ「エコパーク水俣」さまからのご厚意で、チャリティ販売用にミニバラの鉢植えをいただきました。各会場で販売、その売上げがNEXTEPへの寄付となるものです。会期を通した売上げは45,000円となり、この売上げは若者の就労サポート活動ほか、NEXTEPの活動に大切に使用させていただきます。

大好評のうちに幕を閉じたクリスマスマーケット、毎年ですが法人スタッフはもちろんのこと、このために参加してくれているキャスト（アルバイトスタッフ）の皆さんの活躍があってこそ完走することができています。キャストのみなさんも、毎年共に会場を盛り上げてくれる大切な仲間たち。また来年、どんなキャストさんに出会えるか楽しみにしたいと思います。（坂本春香）

開催概要

期間：2024年11月22日～12月25日
会場：JR熊本駅アミュ広場 / 水前寺会場 / 花畑広場
来場者数：約104万人

一般財団法人松翁会「社会福祉助成」贈呈式



医療的ケアが必要な子どもたちにとって、災害時の電源確保は命に関わる課題です。そこで今回、タイトルの助成事業を応募、採択いただきました。心より感謝致します。助成金を活用し、備蓄用倉庫、非常用蓄電池とソーラーパネルのセットなどを導入します。これからも子どもたちが安心して過ごせる社会環境づくりを進めて参ります。（佐々木大河）

開催概要

日時：2024年11月3日
会場：穂っぶ こども在宅&心身クリニック
参加者：4名

芋ほりと秋のごはん



天候に恵まれたフィールド活動日和でした！

春に植えたサツマイモが夏の猛暑で成育が遅く、いつもより遅めの収穫となりました。掘ってみると大きさはバラバラながらも、よく育った大きなサツマイモが顔を出しました。その他にも収穫時期のずれたピーマンなどを収穫しました。お昼のメニューはサツマイモをメインに揚げ物をして、外で美味しい秋の味覚を味わうことが出来ました。

焼き芋をしたり地主さんから頂いた自然薯も食べて、お腹いっぱい活動でした。（大津隆太）

開催概要

日時：2024年11月23日
会場：フィールドの畑
参加者：6名

小児在宅医療支援研究会で発表しました



熊本市内で開催された「第13回小児在宅医療支援研究会学術集会」に当法人より2名が発表者として参加しました。

この「小児在宅医療支援研究会」は、医療的ケアのある子どもたちやそのご家族などをサポートする医療・福祉従事者等から成り立つもので、毎年全国各地の取り組みが「学術集会」の場で発表されています。

当法人からは、「居宅訪問型児童発達支援ポンポンでの現状と課題 / 山内智香子（ステップ部門作業療法士）」、「短期入所に携わる医療スタッフの入職前後の意識の変化～アンケート調査から～ / 北原日和（穂っぶ看護師）」の内容でそれぞれ発表しました。あわせて、発表者だけでなく小児在宅部門からの聴講者も多く、今後の活動に活かせる様々な視点の学びを多く得た機会となりました。（坂本春香）

開催概要

日時：2024年9月21日
会場：熊本城ホールシビックホール
参加者：30名（NEXTEPスタッフ）

スポンサーズインタビュー ～ NEXTEP をご支援くださっている企業のみなさまをご紹介します～

共に生きる。「物流」と「食」を通じて誰もが笑顔になれる明日をつくる

(株) 共同



代表取締役社長 山下 海南子さん



■ママトコキッチン
〒861-1344
熊本県菊池市七城町蘇崎 1310-3
TEL：0968-41-5091

共同が運営する「ママトコキッチン」。乳用経産牛(搾乳の役目を終えた母牛)の赤身肉「希結(きぼう)の牛」を使用したハンバーグなど体に優しい料理を味わえます。テラスには車イスやベビーカーでもガーデンへ出られるようスロープを設置

昭和初期に海運業として創業したのち、現在のトラック陸運業へ。食品物流を中心にトラックと協力会社とのネットワークを駆使した独自の共同配送システムを構築しています。熊本県内3カ所にある最新鋭の物流センターを最大限活用し、仕分けや在庫管理、指定の店舗・エンドユーザーへの配送まで一貫してサポート。多温度帯の品物の保管、仕分け、発送など、きめ細かなサービスでお客様に寄り添ったワンストップサービスをご提案しています。

そして菊池にある「熊本ミートセンター」は食肉の一次加工から二次加工、三次加工までをトータルで一貫加工できる全国的にも珍しい施設です。同じ敷地にあるレストラン「ママトコキッチン」では、お母さんが子どもに安心して食べさせられるものづくりをコンセプトに自社製品の直販や食育活動にも取り組んでいます。また障がいをお持ちの方々の雇用の場をもっと広げようとする採用活動を長年行っており、30名ほどが活躍。ほかにも食品ロスの削減と子どもたちの貧困問題の緩和を目的としたフードバンクを立ち上げ、私たちの専門分野である物流・配送設備を有効活用した社会貢献に取り組んでいます。

ネクステップさんはハンディーを抱えるお子さんを多方面からサポートしておられ、私たちの本社と同じ合志市にあることから、大いに刺激をもらっています。先日は「ママトコキッチン」でそうしたお子さんとご家族の仮装パーティーを開催してくださり、嬉しかったです。これからも誰もが共生できる社会づくりを目指して、ネクステップさんの活動に協力していきたいです。



ママトコキッチンにあるキャンパススペースや広い中庭。左頁掲載の「オータムぱちフェス」の会場としてもお借りしました



【NEXTEP 部門紹介】



穂っぶ

こども在宅&心身クリニック 小児在宅支援事業



ステップ

不登校児サポート事業



フィールド

不登校児サポート事業



ドリカムキッズ

学生部門事業



フォーラム

異業種交流・講演会事業



就労サポート

久遠・就労A型事業

NEXTEPの活動へご支援いただいている特別協賛各社

